

様式第3号（第12条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度第1回行財政改革推進委員会
開 催 日 時	令和4年11月30日（水）午後2時から午後4時まで
開 催 場 所	吉川市役所302会議室
出席委員（者）氏名	石坂督規委員長、荻須憲司副委員長、對馬友彦委員、木原十三男委員、山野隆子委員
欠席委員（者）氏名	なし
担当課職員職氏名	政策室副室長兼主幹 中村喜光 政策室企画担当副主幹 相川美佐子 政策室企画担当主査 平塚雅史 政策室企画担当主事 野口陽子、永松直樹
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）行財政改革推進委員会の進め方について （2）よしかわ行財政改革推進プランの進行管理について 資料 1 行財政改革推進委員会の今後の予定 2 よしかわ行財政改革推進プラン進行管理シート 5 その他 6 閉会
非公開の理由（会議を非公開にした場合）	なし
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	次第、資料1 行財政改革推進委員会の今後の予定、資料2 よしかわ行財政改革推進プラン進行管理シート
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	對馬委員、木原委員
その他の必要事項	なし
審議内容（発言者、発言内容、審議経過、決定事項等）	
事務局	1 開会 ただ今より、令和4年度第1回行財政改革推進委員会を開会する。

2 あいさつ

－政策室長あいさつ

3 議事

(1) 行財政改革推進委員会の進め方について

事務局

資料1に基づき、今後の進め方について説明
(質疑なし)

(2) よしかわ行財政改革推進プランの進行管理について

委員長

意見交換をするにあたって、どういったものか説明をお願いします。

事務局

－事務局説明(資料2)

令和3年度進捗結果について、昨年度の委員会で報告した進捗状況から、「2-②-4 UDフォントの活用」「2-③-3 地域の主体的な減災対策活動の支援」「3-①-3 受益者負担の適正管理」の3つの改革事項について、「計画どおり実施できた」から「一部実施できなかった(計画に影響なし)」に変更となっている。

第1期よしかわ行財政改革推進プランで廃止となった改革事項

■ 2-①-3 プロジェクトチーム設置手法の活用

■ 3-③-2 施設包括管理の導入

(質疑なし)

大柱1 効率的な行政運営

委員

■ 1-①-4 標準システムへの円滑な移行

現行システムの標準システムへの移行作業は膨大な作業量になると思う。また、令和7年度までに移行するということでワーキングチームを結成して取り組んでいるとのことで素晴らしいと思うが、住民記録情報などのデータ移行は少しでも間違えると大変なことになるので、次のステップや全体を見てしっかりと取り組んでいったほしい。

委員長

標準システムへの移行は、国の進捗に関係があると思うが、国に合わせてこういった計画となっているということでよいか。

事務局	国の示している対象業務について取り組んでいる。
委員	そういう意味では、埼玉県や近隣の越谷市、三郷市などと情報交換など連携をしながらやってほしいと思う。
委員	<p>■ 1-②-3 サウンディング型市場調査の活用</p> <p>国交省主催のサウンディング型市場調査を実施とあるが、吉川市の事業ではないのか。</p>
事務局	吉川市の事業について、国交省主催のサウンディング調査に参加した。市の方でテーマを設定し、関心のある民間事業者と事業の実現可能性や、こういう内容であれば参入しやすいというようなところを意見交換し、今後の基本計画などに落とし込んでいくものである。
委員	今後も国や県などで実施しているものも多くあると思うので、アンテナを高くして参加していけば費用もかからずよい取組だと思う。
委員長	他の自治体でも、例えば廃校など、昔は単に買ってくれるところを探して売却という形だったと思うが、このサウンディング型調査を取り入れて、事前に民間の活用についての意見を入れてみて、実際に効果はあったか。
事務局	実現可能性や事業手法については、民間の意見をいただけたので、非常に参考となっている。ただし、やはりある程度市の方で具体的にもう少しイメージが固まっていないと、幅広い意見になってしまうのが課題と感じている。
委員長	様々な事業者が参加して意見を言うので、市としての方向性が定まっていないと、という課題もあるということである。ただ、今後はこういった形での調査が増えてくると思う。跡地利用のような場面では、こういった手法を積極的に導入していくということによろしいか。
事務局	現在、PFIなどの手法の中でも、民間提案制度としてある程度

自由に提案をしていただくという手法も主流になりつつあるので、そういった手法も検討しながらいいものを選択していきたい。

◎プランの「効率化・成果向上・コスト削減」欄の星印について

委員

全体的な話になるが、プランの中で「コスト削減」というところに星印の数で評価が付いているが、ISO9001の項目など何がコスト削減に繋がるのかよくわからないものがある。

例えば、「アウトソーシングの推進」でコスト削減が星2つとなっていて、「品質マネジメントシステムの改善」も同じ評価になっておりわかりにくい。

委員長

星印による評価の説明だが、この星の数を付けているのは担当課ということでよいか。また、基本的には担当課の方で付けているとのことだが、基準というものはあるのか。

事務局

プランの策定の際に、担当課にまずは改革事項の照会を行い、星をつけた状態で回答をもらい、それを取りまとめて全体のバランスを見ながら、修正や調整を行っている。

星印の基準は特になく、感覚的なものではあるが、この改革事項はどういった効果が見込まれるかというところを示しているものである。

例えば「品質マネジメントシステムの改善」という改革事項では、一見するとコスト削減にどのように繋がるのかというような内容だが、業務の見直しや事務改善というところが含まれてくるので、コスト削減に繋がってくるということで、星2つという形で示している。

委員長

星2つは恐らくコスト削減効果がそれほど大きくはなく、3つ付いているとかなりコスト削減効果があるということでよいか。

事務局

期待する効果として「コスト削減」が最も期待できる改革事項には、「コスト削減」欄に星を3つ付けている。一方で、そこまでコスト削減効果は見込まれないが、かといって全くコスト削減の効果が無いというわけではないため、星を2つ付けているものもある。

委員

星を無理に付けなくてもいいのではないか。見栄えを良くするた

めに付けたものが、反対にそれをもとに疑われてしまったりするので、正直に表示してもいいのかなと思う。突き詰めていっても恐らくそこまでコスト削減の効果はないのかなと思う内容もある。

■ 1-②-1 アウトソーシングの推進

委員長

アウトソーシングの推進など、進めていけばコスト削減に繋がるとは思うけれども、吉川市の場合はなかなか進んでいないということで、課題があるため星2つしか付いていない。これがうまく回り始めると星3つとなる可能性がある。

アウトソーシングできる業者がないとか、昔から行政や地域の方が担ってきたものを民間やNPOにというのも難しい面はある。

委員

入札の業者は市内に絞っているのか。

事務局

市内業者に絞ってはいない。

委員長

体育館や公民館の事業について、今は直営でやっているそうだが、他の自治体はこういう部門や窓口部門に民間を入れたりしている。

民間を入れれば、今まで自治体職員が行っていた業務の人件費がなくなるため確実にコストカットにつながるが、吉川市ではなかなかそこが進んでいない。これは様々なデメリットがあるのでその辺を勘案しながら、引き続き検討、調査研究となっているものと思う。

委員

アウトソーシングなど、取り組むからにはコスト削減は重要な目的であると思う。金融企業の例では、いかに集中化して事務を行っていくかということで、外部委託については子会社を作りスタッフを集めて効率化を図るというやり方をした。また、10年も前だが、全く別の部門から人材を集めるとコストが高くなってしまふところを、退職者を活用しながら質を落とさずに効率よくやるということに取組んでいた。

また、シルバー人材センターで公民館の受付事務とか、自転車置き場の管理などを請け負っているが、少なくとも市の職員を使うよりもよっぽど安価な賃金で委託できるので、窓口業務なども含めてもう少し対応できることがあるのではないかと思う。

「窓口業務の外部委託の導入」については、資料中でマニュアルをどうやって作っていくかが難しいという記載があったが、例えば、

公民館の業務となると幅広く、マニュアル等をしっかりと作っていないと利用者が迷惑を被ることになる。そうしたところで難しい面はあるが、まだまだできるところがあるのではないかという気がする。

このコスト削減は絵に描いた餅になるかもしれないが、やはり目標にすることは大事なことはないか。

■ 1-①-3 デジタル技術を活用した業務の効率化

委員長

デジタル技術の活用については、前回からかなり進捗があるように見える。音声認識システムというのは、会議の音声を認識してそれを文字化するシステムを導入しているのか。今まではテープ起こしという作業をされていたと思うが、このシステムが導入されると非常に効率化されると思う。

事務局

導入して非常に効率化された。音声認識システムについては、埼玉県が推進して県内の市町村が共同で利用できるようにシステムを構築しているものを利用している。本日も音声を録音させていただいており、この後音声をクラウド上にアップロードすると文字化されるものである。

委員長

前回話題に出た電子決済の進捗はいかがか。

事務局

電子決済については後ほどの報告で触れるが、前は市税などをキャッシュレスで支払えるようになったことを報告したが、今年度は窓口での手数料や施設の使用料などへの導入可能性について、全庁照会を行い、把握しているところである。

委員長

今は若い人、学生なんかを見ても、現金を持ち歩く人は少なくなっているの、多様な支払い形態に対応できるのはとてもよいので進めてほしい。

大柱2 効果的な公共サービス

■ 2-①-2 成果向上のための行動経済学の活用

■ 2-①-4 人材育成の充実

委員

「成果向上のための行動経済学の活用」については、セミナーに参加できていないという記載があった。それから人材育成の充実に

については、デジタル人材の育成の体系化を考慮した研修計画の策定を行っていくということであった。その他にも様々研修や人材育成ということが記載されている。専門の研修などは対面式でないを受けられないなど、全てが対応できるわけではないが、効率化という観点からeラーニングの活用を検討してほしい。

eラーニングでは受講者の時間が自由になるし、情報セキュリティーなど全職員に定期的に周知する必要がある内容などで活用できると思う。

委員長

現在eラーニングでは実施していないのか。大学ではすべてeラーニングとなっている。基礎的な研修であればeラーニングで十分できると思う。

委員

県ではセミナーなどもオンライン化されている。ワークができないということが問題になるため、場面によってeラーニングと対面式の研修等をうまく組み合わせることが大事であると思う。

事務局

実際に職員が個別で希望するものなど、eラーニングを活用してはいるが、やはり組織全体として広く研修を受けてもらう必要がある場合では対面で行っている。

委員

デジタル人材について、育成のために階層別の研修などを実施しているのか。たとえば東京都では職員全員がITパスポートを取るなど聞いたことがある。

事務局

まず管理職からDXの研修を始めているが、まだ育成の体系化というところまでは示せてはいないので、これから取り組んでいくところである。

委員

テレワークなどもそうだが、DXの環境を整えるのは大変だと思うが、基盤づくりを頑張って進めてほしい。

■ 2-②-2 行政手続の利便性の向上

■ 2-②-3 チャットボットの導入 (第1期)

委員

電子申請などは、ちょっとしたことでうまくいかなかったりする。

そうした場合 FAQ やチャットボットは有効と思われる。うまく分析して次に繋げていただきたい。

委員長

だんだんと若い人は電話をかけるハードルが高くなっている。活用できればよいと思う。

■ 2-①-1 市民ニーズの的確な把握

委員

若い人はオンラインで利用されることが増えているが、高齢の方はやはりオンラインが苦手な直接行って話を聞きたいとか、相談したいという方も多い。

市民ニーズの的確な把握で、オンライン回答ができるようになったとあるが、デジタルデバイドというか、年齢によって格差が出てくるのではないか。

委員長

前回までは全て郵送で回収していたところ、オンライン回答にしてどうであったか。回答率が下がったということであるが、オンライン回答が可能になり、若い方からの回答が増えたというような回答者の属性に変化はあったか。

事務局

今年度は、従来の郵送での方法と、QRコードを読み取りスマートフォンやパソコン等で回答できるオンライン回答の方法どちらでも回答できるようにした。回答者の属性については、今手元に資料がないため、後ほど調べさせていただきます。

委員長

アンケート調査を行うと、どうしても年配の方の回答がすごく多くなってしまい、若い人の回答が得られないということがよくある。そういう意味ではオンライン化により、回答者の年齢層が広がったのであれば、回答率自体は下がってしまったけれども、それはそれで一つ良かったのではと思う。

また、回収率も 36.9%ということで、他の都市と比べるとそこまで低くないと思う。アンケートの回答率で目標の 50%という数値はすさまじく高い数値であるので、36%という数値でもいいのではと思う。

事務局

オンライン回答のページの作りがわかりにくいということや、質問の数が多すぎるなども回答が減ってしまった要因の一つであると

考えている。回答方法については、改めて検討したい。

■ 2-①-6 時間外勤務の縮減

委員

時間外勤務について、結果として削減されたのか変わらなかったのか、コロナの影響で増えたのかなど変化はあったのか。

事務局

令和2年度についてはコロナの影響でイベントなどが中止となった関係で、例年よりは時間外勤務が減少したものの、令和3年度については、ワクチン接種事務やコロナ関連の給付事業、マイナンバーカードの交付対応など、イレギュラーな業務が多く、時間外勤務が多くなった状況である。今年度については10月時点で、昨年度ほどではないものの、例年年度末などは時間外勤務が多くなる時期であるため、昨年と大きくは変わらないと思われる。

■ 2-③-2 市民・地域の主体的な地域課題解決の促進

委員

地域課題を地域で解決するための勉強会とみらいステップアップ助成事業はどのような事業か。上半期の助成金交付決定団体3団体の提案内容は。

事務局

地域課題を地域で解決するための勉強会については、減災対策など、自治会等の単位で集まり勉強会を開催するものとなっている。

みらいステップアップ助成事業は、市民団体などが事業内容のプレゼンを行い、審査をした上で、活動資金の助成を行うものである。

子育ての一時預かりや障がい者スポーツなどが提案として挙がっている。

■ 2-①-6 職員向け子育て支援及び介護支援制度の利用促進

委員

職員向け子育て支援と介護支援制度の利用について、取得実績が多くなってきてよいと思うが、他の市町村の利用実績と比べてどういう状況か。

また、今後高齢化が進むにつれて、介護休暇の取得が増えてくると思う。働き盛りの年代の方達の取得が増えると、計画的に進めないと業務自体が回らなくなることもある。

事務局

比較的この休暇制度については広く周知されてきており、また取得される方も増えてきている。

女性については、100%の取得率であり、出産前から休暇を取得し、育児休業に入り、保育所に入るまで、1年から2年程度で復帰する職員が多い。

男性についても1ヶ月程度育児休業を取得する方が多く、取得実績がかなり増えている。期間によっては給与に影響もあるため、男性職員の場合は生まれてから1ヶ月程度一緒に子育てをして、その後は子どもの看護休暇などを一日単位で取得するというケースも多い。

委員長

埼玉県男女共同参画審議会でも議論になったのが、取得率や取得者数を出して、取得実績が向上していると公表しているところが多いが、数日間でも取得率や取得者数は上がるので、取得期間が大事であるということであった。1ヶ月間取得できるとしたらとても高い成果であると思う。

委員

女性が取得する時は誰も何も言わないが、男性が取得すると色々言われたりということがある。意識の問題も大きな問題であると思う。職員への周知をしっかりとすることが重要になる。

委員

男性の育児休業はだいたい1ヶ月ぐらい取得する職員が多いのか。

事務局

男性は2週間から1か月ぐらいの取得が多くなっている。

女性は生まれてから1歳になる前後と、その後保育所に入れるかどうかというところで復職する職員と、2歳ぐらいまで子育てをする職員など様々である。

委員

あまりに短期間だと代わりに人を雇えないということや、反対に期間が長くなると仕事がうまく引き継げないなど様々な課題があると聞いている。

3 健全な財政運営

■ 3-③-1 公共施設マネジメントの推進

委員

シルバー人材センターの仕事で公民館の受付事務等をしているが、施設の修繕が必要と感ずることが多い。

公民館というのは、利益目的の施設ではないが、他市と比べて無

料で利用する団体などが多いと聞いたこともある。修繕のためにある程度利用料の負担を求めてもいいのではないかと思う。

事務局

基本的には施設の利用料は徴収しているが、高齢者や障がいをお持ちの方は無料としている。

公民館というのは、高齢者の利用頻度が比較的高いため、無料の利用者も相当数いると考えている。

無料化は、高齢者に外に出て活動をしていただき、交流を持ってもらいたいという部分もあり、一方、今後の維持管理費も考慮すると、利用料の負担については非常に難しい判断になると思う。

委員長

有料化する対象をどうするかなどかなり課題があると思うが、検討は可能かと思う。

個人から取るのはどうかと思うが、団体として利用する場合には利用料を徴取するなど、場合によって進めていけるのではないか。

事務局

団体であれば個人の負担割合が少なく済むということもあるのでご意見として承る。

■ 3-①-5 広告事業の推進・ネーミングライツの導入

委員

ネーミングライツについて、資料を見るとあまり「計画どおり実施できた」ようには思えない。情報収集に時間がかかりすぎていると思う。

委員長

競技場やスタジアムなどがあればよいが、市内にあまり該当するような施設はなかなかないのではないかと思う。

事務局

検討している施設はあるが、検討段階からなかなか進んでいないというのは事実であり、もう少し前に進めるように調整していければと思う。

委員長

前回場所がないという話があったが、広告は色々なところで利用できる。極端に言えば、窓に広告を出すこともできるし、デジタルサイネージで動画を流すなども考えられる。

新たなものを導入するのは難しいし、ネーミングライツは少しハードルが高いと思うが、ぜひ広告収入をあげるための検討を進めて

ほしい。

■効果的な市債の活用

委員

市債の活用という項目があるが、デジタル化に活用できる交付金があると思うので、活用できるものをうまく利用していただきたい。

事務局

国がデジタル田園都市国家構想を打ち立て、既存の地方創生交付金を再編し、デジタル技術の活用やデジタル化の推進に特化して使えるように交付金を用意されている。今後事業等に活用できるように進めていきたいと考えている。

5 その他

なし

6 閉会

副委員長

—副委員長挨拶—

意見が多く出て活発な会議となった。委員の皆さんの意見を伺うとそういった意見があるのかと思うことがある。今後もよりよい吉川市を目指して協力していきたいと思う。

以 上

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和4年12月28日

署名委員 (木原十三男 委員自署) 署名委員 (對馬友彦 委員自署)